

可
まで受付は希望の読講

monthly
JODO



June

1999

6

法然上人鑽仰会





テレコムしよう。



コミュニケーションの未来へ

日本テレコム

お申し込み、お問い合わせは
お客様センターへどうぞ



0088-82 (無料)

(受付時間) 9:00~23:00 (年中無休)

(インターネットホームページ) <http://www.japan-telecom.co.jp/service/>

国際電話は **0041**、市外電話は **0088** でテレコムしよう。

会津大仏願成寺



浄土六月

寺院紀行

会津大仏

願成寺

会津大仏の新阿彌陀堂、手前の池は心の字の池



文／撮影・真山 剛

「この寺を生きているお寺として活かしていきたいのです」

願成寺の第六十四世津田俊良住職は玄関から上つてすぐの居間と寝室を兼ねる客間で、力強い声でこう答えてくれた。

「寺は生きていなければ駄目ですよ。同じ仏でも博物館の仏は死んでいる。仏は拝む人がいて始めて生きてくる。拝む人の心が功德を生むのです。ですから皆さんに見るのではなくお参りを、そして念仏をしてもらわなければ」

津田住職が守っている寺は会津の喜多方にある。蔵とラーメンで有名な町だが、喜多方駅から北へおよそ五キロ、押切川に架かる願成寺橋を渡ると、願成寺はもうすぐである。5年前にかけられた橋の名前につけられているが、願成寺という名はかつては地名、堰の名前などにもつけられていた。

願成寺は古刹中の古刹で、建立は嘉禄三（一二二七）年、法然上人が滅してわずか十五年後のことである。

これまでもこの寺院紀行で多くの浄土宗寺院を訪れたが、建立がもっとも古い寺院も多々あった。しかしそれはみな天台宗や真言宗として建立された寺が浄土宗に宗旨変えたのであって、最初から浄土宗として建立された寺院としては、この願成寺が最も古い。

願成寺は法然上人の高弟の一人、隆寛律師が開山した古刹である。隆寛律師は多念義という考え方を主張し、浄土宗の一派を確立し

会津大仏は藤原様式にも見られるが鎌倉時代の作とも言われている

元国宝、現重要文化財の会津大仏を護るためにお堂が建て替えられた



たが、その隆寛律師創建の願成寺建立のいきさつを見てみよう。

読者の多くは法然上人が著した『選択集』を「ご存じだ」と思うが、法然上人滅後にその『選択集』に対する弾劾の書、『彈選択』が比叡山の天台僧によって著された。法然上人の生前からあった念仏門への数多い反発、非難の一つである。

それに対して法然上人から『選択集』を相伝している隆寛は『顕選択』を著し、その弾劾の当たらないことを極めて明確に指摘した。これがきっかけで嘉禄の法難となる。

嘉禄の法難とは、叡山僧侶達が法然上人の墓を暴き、その遺骸を打ち捨てようとしたものだ。弟子達の協力で宗祖の遺骸は無事守られたが、結局、隆寛を始め三人の流罪が決定する。

隆寛の流罪先は奥州、そう現在の会津の加納、この地である。

八十歳という高齢で流された隆寛律師を送る役目の者が、その徳の高さに帰依し、また老体をいたわり、自分の所領の相模の飯山に律師を秘かに留め、配所にはかわりにその弟子、実成をやった。

そうした思いも虚しく、同年暮れ隆寛律師は飯山で往生を遂げる。そこで弟子、実成はその遺骨を会津に持ち帰り、隆寛律師が法然上人からいただいた阿弥陀仏を本尊として一寺を建立したのである。それがこの願成寺である。

こう歴史を繙くと、まさに浄土宗を代表する名刹である。

御廟山（現上三宮町廟山）にある隆寛律師の墓



山門は元禄十一（一六六八）年に再建された



そして多念義の総本山として奥羽の浄土宗の一大道場となったことも、山門前に建つ石柱に示るされている。

しかしその後には大きな法難に遭う。蒲生氏の頃の戦乱となると仏殿、山門、方丈がこわれ、残ったのは御影堂だけとなり、一時、住職は新潟へ逃れる。蒲生氏に変わり上杉氏が入った慶長四（一五九九）年、住職の訴えが通り会津若松城下に三千坪の寺領を賜り、新しい願成寺が再興する。この願成寺はのちに願成就寺と寺名を変えるが、明治維新や第二次世界大戦を経て寺地はなくなり、歴史のみが残っている。

一方お堂だけとなった加納の願成寺は、徳川家の血を引く保科氏が会津藩主となったことで、行誓霊雲上人が再興に乗り出す。この行誓霊雲上人は寺の再興とともに町作りにも専心した。

その行誓は再興にあたり、願成寺の寺城を南に移している。

開山の隆寛律師の墓が残る廟山や、二十五菩薩が来迎するための来迎壇は今も残るが、そこから南の方角に願成寺を移したのだ。そして再建にあたっては、同時に町作りも行っている。願成寺堰を作り水を引いた。現在の上三宮の願成寺の門前には、家屋が今もきれいに等間隔で並んでいるが、この区割りも行誓さんの実績である。

さて、この行誓上人が中興として崇められる理由がまだある。それは会津大仏を願成寺に移転したことである。



願成寺本堂。この後ろにかつての阿弥陀堂が残っている



本堂には、開山隆寛律師、その弟子実成上人、中興の行誓上人の木像、そして阿弥陀如来二十五菩薩の像がある



願成寺本尊阿弥陀如来は開山隆寛律師が法然上人から相伝したものと云われている

本誌巻頭を飾る会津大仏だが、今の願成寺から東北へ五キロほどの光徳寺に住していた行誉上人が、近くの大仏山中村で巧ちかけていたものを移転したのである。

この大仏は観音、勢至両菩薩を脇侍とする阿弥陀如来で、高さはおよそ二・五メートル。両菩薩は膝を折って座っていて大原三千院の来迎三尊像と同じ形式で、東北地方では珍しい形式だという。

阿弥陀如来の舟形の光背は千体仏がついているが、この光背は願成寺に来てから修復したものだという。そしてこの大仏は昭和四年に国宝指定されたが、昭和二十五年法改正とともに重要文化財となった。ちなみに作者は文化庁の調べで慈覚大師とわかっている。

さて、この歴史と伝統があり、大仏まである願成寺だが、実はなかなか寺の運営が大変なのである。

現在の住職は先代の長男でこの願成寺で始めての世襲となるが、中学三年の夏に千葉の佐倉にある寺院に小僧として出されている。昭和二十四年、戦後の大変な時代のことだ。

実はこの頃の願成寺は困窮の最中にあり、食い扶持を一人分でも減らしたい、という状況だったという。何となく行くかと言われ、汽車に乗りたいたい一心ながらある覚悟を持った、と住職はいう。

やはり一緒に行ったものの父と一緒に帰ることはなかった。以来住職は千葉の寺で小僧として過ごす。この喜多方へ帰って来たのは

お面かぶりに用いられた菩薩面が今も残っている



喜多方は蕎麦とラーメンが有名だ。写真には蕎麦を型どった駅前の観光馬車



昭和五十九年、先代の父が病に倒れたからである。

元国宝の大仏があっても観光客がさほど訪れず、また会津という土地柄、寺の維持は大変だという。現にいまでも会津のお寺は経済的に苦しいところが多い。

現在会津には約八十の浄土宗寺院があるが、住職の数は二十余名という。つまり一人の住職が何ヶ寺もの住職を兼ねているのである。現に津田住職も四つのお寺の住職を兼ねている。

その理由の大きな一つは明治の廃仏毀釈だそう。喜多方では葬儀の半分位は神道での葬儀という。お布施の額も都会とは比べものにならないという。こうした事情からか、宗派は異なるが、寺離れを防ぐため村中全員に院殿号を授けたところもあるという。坊主丸儲けなどとよく言うが、どうやらそれは虚言のようである。

先代住職が一度も戻って来いと言わなかったし、住職も戻ることを意識したことはなかったという。しかし自分が育った寺が、しかも格式ある寺が自分の目の前でなくなっていくのは見ていられなかったという。

そうして津田住職の心はこの名利復興に占められてくる。

「願いを持ち続けられ、必ず叶う。この寺は叶山三宝院願成寺といえます。まさにその通りですよ」

住職がかなえて来た願いがいくつかある。開創七百七十年を記念

願成寺第六十四世、津田俊良住職



して花を植えようと檀信徒に呼びかけたことだ。その呼びかけでツツジやアジサイが境内を彩るようになった。またお寺をみんなで護っているという護寺会の活動も盛んになった。

それに何よりお参りの時念仏の声が高らかに響くようになったという。現在大仏が納まっている新阿弥陀堂は昭和五十二年竣工、翌年大仏遷座という大事業で先代の大きな業績だが、その阿弥陀堂に念仏の声が響く。入り口には観光客のメモ書きがたくさん残っている。少しづつではあるが確実に変わってきているようだ。

そして次の願いは。かつて願成寺最盛の頃の通称お面かぶりの復活だという。これも現在に残るお面を参考によりやく二十五揃えた。衣も団参にきたお寺の方々が労を惜しまず集めて寄付してくれた。お面かぶりの復活にもうあと一步、というところだ。

最後は大仏光背の千体仏の修復だ。かつての戦乱時代、そして近くは昭和の戦争でお守りとして千体仏が持ち去られた。無事戻れば千体仏も戻されるが、持ち帰れないことも多い。そうした方々の供養もあり、欠けた千体仏の寄贈を募っているのだ。

願いを持ち続ける——住職がこの気持ちを忘れない限り、願成寺が昔日の興隆を再現することはさほど遠くない日のことになるかもしれない。

(ルポライター)

旧阿弥陀堂の隣に並ぶ歴代上人の墓



浄土

1999/6月号 目次

寺院紀行「会津大仏 願成寺」	真山 剛	4
目次		11
新連載 小さな庭の小さな出来事	菅野與志美	12
表紙の言葉	三浦功大	17
連載小説 法然上人をめぐる人々 (三)	石丸晶子	18
東海道五十三次を歩いて (三)	原田 功	26
御法語に聴く	小村正孝	36
仏教相談	大室了皓	40
コラム		44
J フォーラム		45
浄土誌上旬会	選者＝増田河郎	46
事務局便り		49
編集後記		50



表紙題字＝浄土門主 中村康隆 下
表紙撮影＝三浦功大
アートディレクション＝近藤十四郎
協力＝迦陵頻伽舎

小さな庭
の
小さな

出来事

野鳥観察家

菅野與志美

連載第一回

私の家の小さな庭に、なぜかいろいろな生き物が集まるようになりました。昆虫から野鳥に至るそれらの生き物たちを毎日観察していると、とても楽しい気分になり、いつしか回りに野鳥の集まる家とまで言われるようになってしまいました。そんな私の観察記録をお話したいと思います。

これから夏になれば、多くのせみたちが私の庭で羽化します。ニーニーゼミ、ヒグラシ、ミンミンゼミ、ツクツクホウシなど多種類に渡り、その数七十匹から百匹にもなります。それはそれはにぎやかな庭です。

決して広くはない庭ですが、高さ4メートルくらいの木は、ネズミモチ、ツガ、モミ、モクレン、タイサンボクなどがあります。また小木では、ワビスケ、山野草、また茶花として千両、万両など多種類の草木が所狭しとあります。

そんな樹木一本一本に、野鳥たちが巣を産卵するのです。それほど大きな庭ではありません。

せんから、一組の雄雌が営巣すると同種類の鳥は巣作りができなくなり、巣立ちまで順番待ちのありさまで。だから他の場所でも営巣しますが、ヒナが生まれると、親鳥が卵のカラをくわえてこの庭にそっと置いてゆくのです。私も無事繁殖できたのだなあと安堵し、嬉しくなります。

この庭に来る野鳥たちは、スズメ、ウグイス、メジロ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、オナガ、エナガ、カワラヒワ、ハクセキレイ、コゲラ、コジュケイ、モズ、アカハラ等々です。また冬には渡り鳥が中国大陸や朝鮮半島などからやって来ます。シメ、ジョウビタキ、ヒレンジャク、キレンジャク、シロハラ、ツグミなどです。

この庭で繁殖し、巣立って行った野鳥たちは、一年に四十五羽以上になります。しかし無事巣立っても親鳥になるまでには、約半数以上が外敵や怪我、病気等で生き残れないのが現状です。これが自然界の厳しさなのでし

よう。怪我などをし弱り果ててこの庭に戻つてきて、静かに息を引き取った鳥たちのために、庭の隅にささやかな石塚を作り供養しています。

野鳥たちそれぞれに、多くのドラマがあり



ます。中でも一番人との関わりの深い鳥といえ、やはりスズメでしょう。スズメは人家近くを生活の場所とし、人の優しさも怖さも一番よく知っている鳥なのです。そのためちゃんと人との距離を作りながら、人間を利用して生きている鳥です。またスズメは農家の方にとっては一時期は害鳥になりますが、それ以外むしろ一年の三分の二の時期は虫などを捕ってくれる益鳥なのです。驚くことに一羽の小鳥が一年間に食する虫の数は、十万匹とも言われています。十羽の小鳥で実に百万匹の害虫駆除をしてくれているのです。

我が庭のスズメの営巣は二か所あり、毎年二回から三回の巣立ちが見られます。

長年観察を続けていますと、スズメに限りませんが小鳥たちの鳴き声を聞いていて、三種類くらいの聞き分けができるようになりました。縄張り、求愛、外敵侵入といった聞き分けです。

先日スズメの外敵侵入の鳴き声が聞こえ、

その声に連れられ垣根づたいにスズメの後をついてゆくと、大きな青大将（蛇）がいるではありませんか。そのうち何羽ものスズメが集まってきて、あまりに鳴き立てるので、しようがなく私が青大将を捕まえ、遠くの山まで運び放してあげました。何と2メートルもある青大将でした。

そしてスズメたちはそれに味をしめたのか、近くに青大将が出るたびに、私の窓辺に来ては鳴き立てるようになってしまいました。お陰で三日間で実に七匹もの青大将を運ぶことになったのです。まさに人の手を借りることも、しっかりと学習してしまうようです。

シジュウカフの巣箱選び

野鳥たちは自然の中では、木の穴や石垣のすき間などを利用して繁殖するわけですが、そのような場所が年々少なくなり、私自身余り本意ではありませんが、ムクドリ用とシジ

ユウカラ用の巣箱を、我が庭にも四つほど設置しました。

ムクドリ用は大きめにし、シジュウカラ用はそれより小さめにし、大きな鳥に横取りされないよう、入り口をシジュウカラがようやく出入りできる2・7センチにしました。

二月末から三月にかけては鳥たちが営巣をするための巣の下調べが繰り返されます。コツコツとくちばしでノックを繰り返し、中に何も入っていないか、安全であるかなど充分に確認してからでないと絶対に中に入らないのです。そして実際の巣作りは四月から五月に始まるのです。さすが自然界に育つ野鳥だなと感心させられます。

そして繁殖の時期になると、雄は雌をつれてこの場所にやって来ます。雌のOKがなければ営巣ができないのです。野鳥たちを見ていて気がつくまゝのは、住居の決定権は、す

べて雌にあるようです。巣の中のことはすべて雌が決めているようで、野鳥の世界の雌はまさに「家内」なのです。

しかし中には分不相応な雌もいて、シジュウカラなのにムクドリ用の大きな巣を選んでしまうのです。この雌は雄を先導して巣の材料のあるところまで来て、雄にその場所の確保と警戒をさせて、雌ひとりで材料運びから巣作りまでのすべてをしています。大きい巣箱を選んだために難儀の連続ですが、何とか巣を作り産卵をしたものの、今度は卵を抱いていても、卵が動いてどうにも落ち着きません。とうとう嫌になった雌は、卵をそのままにさっさと次の巣に移ってしまうありさまです。そして本来のシジュウカラ用の巣箱に落ち着いて、改めて産卵し、羽化し、巣立っていききました。

(つづく)

今月の表紙

明美蓮

蓮

LOTUS

池の中に蓮華あり

大如車輪

青色には青光あり

黄色には黄光

赤色赤光

そして白色には白光ありて

微妙香潔なり

舍利弗よ

極楽国土には

かくの如くの

功德莊嚴が成就される

・

蓮華

この不可思議

たとえ七寶池八功德水なくとも

小さな泥田に

咲く

美しく咲いて

いる

6月

蓮の形態 花

花は萼、花弁、雄蕊、花托からなり、花と葉は根茎（レンコン）の節から別々に独立して出ている。花は花茎の先端に、葉は葉茎の先端につきます。萼（蕾を覆っている花弁）4片、ときには5、6片ありますが、花が咲くとほとんど落下してしまいます。花弁と雄蕊は逆円錐形をしている花托の中に雌蕊（心皮）が入っていて雌蕊（心皮）の柱頭でけが外に出ています。心皮は受精してもしばらくは、花托と同じ緑色をしています。だんだん肥大して暗褐色、楕円形の実（種子）となり、花托は膨大して褐色の果托になります。

表紙写真と文

三浦功大

1942年 宮城県登米町生。蓮に関する総合誌「蓮の語」を毎年発行・責任編集（現在3号までに至る）していることをはじめ、展覧会、講演会、その他イベントなど精力的な活動を通じ、蓮を軸とした多くの文化人の結集を実現させ、注目を集めている。主な写真集、著書に「JAZZ in JAPAN 1963-1974」（西田書店）、「蓮の文華史」（カド創刊）などがある。

「書きおろし連載小説」

石丸晶子

法然上人を めぐる人々 式子内親王の生涯

第三回 女院と法親王、式子を見舞う

四

守覚がことばを切ると、ふたたびあたりに沈黙が広がりはじめた。

と、そのときつぶやくような低い声で、亮子はその沈黙をやぶった。

「何ということ。齋院、あなたは何ということ。をなされる」

亮子や式子にとり弟とはいえ、守覚は今や総法務に叙せられて朝廷から綱所こうじよを賜った、仏教界最高位の僧である。

若くして五代御室覚性法親王のあとを継いだ彼は、以来、その修法によって数々の功德を世にもたらしてきた。

（あのときも——）亮子の脳裏には今、安徳天皇が御誕生になったときの人々の興奮がよみがえっている。

二十年ほど昔のことだ。ときの高倉天皇の中宮徳子が御懐妊になったのである。

徳子はいわずとした清盛の娘。平家にとつて、ここは何としても、徳子に皇女ではなく皇子を産んでもらわねばならぬ。

そこで仁和寺から守覚が宮中に招かれ、日夜、真言密教秘法中の秘法孔雀明王經法の修法がなされたのである。

「御産平安。皇子御誕生候ぞ」

その瞬間、出産の次の間に控えていた清盛の五男重衡が、宮中に詰めてひたすら中宮の安産と皇子誕生を願っている人々に、そう声高らかに告げ知らせたときのどよめきがよみがえってくる。

あれも、すべてはわが弟守覚の法力ではないか。高倉天皇さえ、中宮に男子が生まれたことを喜び、これもひとえに守覚の修法の力によるものだといって、感謝にあふれる御文をくだされたのだ。

それに守覚の法力は、何もこの一件にのみ限るのではなかった。天皇家の人びと、そし

て貴族たち、さらには庶民たちでさえ、この弟を敬い、慕い、病むにつけ、悪霊にとりつかれるにつけ、守覚の修法によつて願いの筋をかなえられている。

亮子には、式子がなぜ、日頃その弟のもとに参じて法力に与ろうとせず、特に病に臥した今、病氣退散の祈禱を願ひ出ないのか、まったく理解できなかった。

あまつさえ、せっかく弟が遣わそうとした修法のための僧を、式子が辞退してしまったとは！

(情けない) そんな思いが心に迫り、あふれる涙を、亮子はしきりに懷紙で押さえた。

五

「おお、そうであった」

そのとき、ふと今日の前の現実にはきもどされた亮子は、側らの二人の女房に向き直ると、

「そなたたちは、齋院さまに御修法をお勧め申し上げることもしなかったのであらうか。齋院さまが拒まれるとあれば、母屋で執りおこなうことはかなうまい。なれど別棟の対屋になりとも加持の壇を設け、御祈禱の僧をお招き申し上げることはできた筈じゃ。そのような心得さえなくて、どうしてお側に仕える女房の務めが果たせましようぞ」

日頃はおだやかで美しいまなざしに、きびしさを宿して亮子はいった。

「――申しわけありません」

そんな亮子の叱責に、御匣殿も大納言局も、平伏したまま顔をあげることができないでいる。

亮子のいう通りなのだ。

だが、対屋にさえ、加持の壇をしつらえることなど、とうてい不可能な空気がこの邸全体に広がっていることを、女院にどう話せばよいのであらう。

邸に仕える女房たちはもとより、後見の公時や家司の定家なども、式子が病んで以来、どれ程、もろもろの修法をとり行われるよう勧めてきたかもしれないのだ。しかし、式子は頑としてそれら一切を拒み、邸内でそれを行うことを許さない――。

亮子に叱責された二人の女房は、面を上げることができずに顔を伏せたまま、式子とその姉弟との、生きている世界のへだたりを、今あらためて感じていた。

「姉上は、それ程までに浄土門に帰依しておられるのですか」

それまで、亮子のことばを黙って聞いていた守覚が、ふいに式子に訊ねた。

「いや、法然房に――」守覚のことばは途中でとぎれた。

皮肉やかからかいを少しもふくまぬ、真面目なまなざしがじつと式子をみつめている。

式子は弟をみつめた。その眸に、生気とも、

あるいは逆に失意ともとれる、何かの影がとおり過ぎた。

そんな影を式子のまなざしにみた守覚は、眸をそらすと、

「お許ください、姉上」

低い、つぶやきともとれる声でいった。

「守覚さん」

突然、式子は力のない声で、弟を幼い頃の呼び名で呼んだ。そしてしばらく、ことばを探している様子であったが、

「わたくしには帰依するものがありません。

帰依したくとも、私の心は闇に閉ざされているのです。守覚さんは、心底、今のお暮らしにお幸せですか。幼いころからみ仏に帰依して、そのお心だけで心底、満たされておられるのでありましょうか」

意表をつく式子のことばであった。

「まあ、あなたは何をいわれる。御室が、心底、深くみ仏に帰依して、お幸せであるのは

当然ではありませんか。ほんとうにあなたという方は、何ということをお願い出されるのです」

ハツとしたように亮子がいった。声が大きくなっていた。そしてしばらく、胸の動悸を押さえている様子であったが、一つ大きく息をすると、

「日頃、不信心であられるから、闇に心が閉ざされることにもなるのです。わたくしなど、日頃御室のもとに参じて真言の行法を習い、法会にも欠かさず列して、有難い法悦をいただいているのです」

六

式子は姉をみつめたまま、黙ってそのところを聞いていた。

亮子はつづけて、

「心が闇の中だの、帰依するものがないだの、すべては齋院、あなたの不信心から来ている

ものではありませんか。邸の奥にひきこもられて、ひとり和歌ばかり詠み、あなたの身分にふさわしい天皇家の人びとや、殿上人たちと、少しも交わろうとなさぬから、心が暗く、さびしい気持にもなってくるのです。そうでありましょう、御室」

亮子はそのままでいうと、やっと少しは気持が落着いたという様子で、横に座す守覚をかえりみた。

「女院が仰せられますこと、道理でございませう」

落着いた声で守覚が答えた。

「姉上が、浄土門をとなえる法然房の教えに、かねてより心を寄せておられますこと、われらも存じております。何といつても、齋院は御出家の戒師に法然房を依頼されましたからな」

当時、天皇家の女性が出家する場合、出家の戒師にはまず第一に仁和寺の御室に、そし

てそれが何かの事情できないならば、園城寺か醍醐寺あたりの高僧に依頼するのがならわしであった。

このならわしの中で、鳥羽上皇の中宮で後白河の生母である待賢門院^{たいてんもんいん}も、その待賢門院の皇女で後白河の姉である上西門院^{じょうさいもんいん}たちも、そして亮子自身も、みな、出家は御室の手によって仁和寺御堂の中でおこなわれている。

だが、式子だけは違っていた。

今から十年あまりも前のことだ。彼女はそんな皇室の習慣に背をむけ、守覚が御室として仁和寺にいるにもかかわらず、この弟に依頼しようとはせずに、法然を戒師に出家したのである。

今、守覚はそのことをいったのだった。

「法然房は高德^{たうとく}の聖でございましょう。われらのところにも、御房の噂は耳に入り、その学徳をしたって、衆生はおろか、摂関家の兼実までが帰依のこころを深めているように聞

き及んでおります。しかし」

守覚はことばを切ると、長く濃い眉毛の下のまなざしに、憂いをにじませてじつと病床の式子をみつめながら、

「姉上は帰依するものがないと仰せられる。

心が闇に閉ざされているといわれる。それは姉上、浄土門を説く法然房の教えが、姉上のものではないからでございます。われら、天皇家に生まれた者に、み仏が授けられたみ教えではないからこそ、帰依しきれず、心が晴れないのでございます」
華奢な守覚の胸が、袈代衣^{けだいゐ}の下で波打っていた。

亮子は守覚のことばに何度もうなづきながら、

「おお、御室の仰せられるとおりじゃ、われらにはわれらに授けられたみ仏のみ教えがある。おわかりください、齋院。そして心の闇を晴らしてください」

張りつめた空気のなかに、亮子のことばが
吸いこまれていった。

あともしばらく、誰も口をひらく者がいな
い。静寂が寢殿をひたしていった。

式子は無言のまま、それまで格子戸からさ
しこむ外光のほうに向けていた目を、姉と弟
に向け直した。

人を愛すること、世俗で生きること、を許
されず、それぞれ幼いうちに神仏の道へと進
まされていった式子の二人の姉弟は、華奢な
肩を寄せ合うようにして、憂わしげに病床の
式子を見守っていた。

(つづく)

石丸晶子（いしまるあきこ）

東京生まれ、東京大学大学院人文科
学研究科修了。現在東京経済大学教
授。一九九一年、『式子内親王伝―面
影びとは法然』で第一回紫式部文学
賞を受賞。著書は他に、『法然の手紙』
（人文書院）『お手紙から見る法然さ
ま』（浄土宗出版室）『現代語訳蜻蛉日
記』（朝日新聞社）など多数。

ポケット版

枕経通夜葬儀諸経偈文集

諸経偈集

こんな経本が
ほしかった

能化必携！

21世紀の経本遂に刊行！

プロが創った

プロフェッショナルのための経本。

緊急、不意の枕経に、お通夜に

能化のお通夜、葬儀のお焼香に

これさえあれば

出先からそのまま回れる。

3つのポイント

◆ポケット版という大きさ！

タテ15センチ、ヨコ8センチ、

厚さ1センチ

◆通夜、葬儀に必要な経文を、

最小限にすべて網羅！

◆経典は、すべて本字にて表記！

内容

廣懺悔

懺悔偈

初夜禮讃偈

佛説無量壽經歎佛頌

佛説無量壽經四普偈

佛説觀無量壽經真身觀文

回向文

佛説阿彌陀經

一折起請文

一紙小消息

發願文

脇導師作法

廣懺悔訓誡

定価：2,000円(税込)

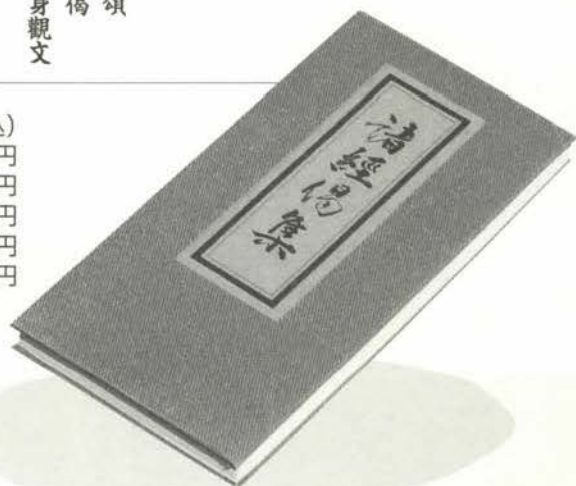
送料 1冊 180円

2冊 210円

3～5冊 310円

6～8冊 340円

9～11冊 380円



◀お申し込み先▶

ふじゅせん刊行会

〒141-0021 東京都品川区上大崎1-9-11 (戒法寺内)

TEL：03-3441-8971 FAX：03-3441-8702

郵便振替00150-8-158563 ふじゅせん刊行会

東海道 五十三次を 歩いて (三)

原田 功

老いてなお
童の気持ちを持つた仲間
四人で東海道を
歩きだした

5、今も残る宿場町

旧東海道は大体国道1号線と重なっている。従って旧東海道を歩くと言っても大型の車がビュンビュン通る国道の歩道を歩くことも多い。国道を歩く時は下を向いてただひたすら足を運ぶことだけに専念する。難行苦行であった。足のマメも特に痛み、指先に血がにじむ事もあった。

旧東海道が国道からそれるとほっとした。そんな所に道祖神や藁屋根の古い家が残っていて、やっと人心地を取り戻す事ができた。五十三もあった宿場町は大きな町ほどその面影を失っている。国道から外れて都市化の波を免れた所に、江戸時代の宿場町の面影を今に残している所がいくつかあった。その中で私たちが指折り数えて人に語りたいのは、次の四つである。

○間の宿 西倉沢東倉沢

由比の宿を過ぎて薩た峠にさしかかる手前の東倉沢西倉沢あたりは、宿場ではないが、峠の下にあつて、ひと休みする所つまり間の宿であつた。

このあたりは山が海に迫っているので、斜面を削った狭い土地に道を通し、道の両側に奥行の狭い民家が並んでいる。この斜面に国道1号線も東海道本線も東名高速道路もすべて通さなければならなかつた。旧東海道は薩埵峠に登るために、海岸線よりも少し高い所の山の中腹を通っているから、鉄道も国道も旧東海道をつぶして通すことができず、より海側を回らざるを得なかつたのであろう。更に平行して東側に東名高速道路が造られ、とうとう新幹線はここを通る事ができず、峠の北側をトンネルで通ることになった。

こうして間の宿東倉沢西倉沢は、交通の難所であるがために、交通の現代化の荒波から際どく逃れて残つた。日本の国の大動脈がひしめいてすぐ下を通っているのに、ここは江

戸時代そのままの古い町並みである。薩埵峠の登り口から見られるこの新旧の併存は実に対照的であり、異様である。

間の宿東倉沢西倉沢の旧東海道を歩く。道幅は3mから4m、これがまあ名にし負う東海道かと思う。しかしこれが正しく東海道なのだ。この町の人はこそって町の現代化に抵抗しているかのように思える。昭和初期まででこの時間はストップしている。「殉国の家」という札を軒先に掲げている家もある。

太平洋戦争の時、家族が戦死した家はこの札がつけられたのである。私たちは戦争に駆り立てられた少年の頃をまざまざと思い出した。なまこ壁や大戸、くぐり戸、格子戸作りの旧家など、いずれも古いながら清潔に拭いてあり営々と人が暮らしている。家々の前にはきれいな花の鉢などが置いてり、道を行く人に対する心使いが無言のうちに感じとれる。昭和の初期に造られた小さな時計台も今だに正確に時を刻んでいる。このようなものを見な



関の宿・有松 町並保存地区 井桁屋

がら歩いていると、五十年いや百年前にタイムスリップしたような感覚にとらわれる。まるで夢をみているようだった。

狭い空き地があった。体の小さなおばあさんが、草むしりをしていた。

「薩埵峠はまだ先ですか」

と話し掛けると、

「すぐそこだよ」

と、気軽に答えてくれた。

「きつい坂でしょう」

と、さらに聞くと、

「てえしたこたあないよ。わたしや、毎日登ってるよ」

と言う。年寄の連帯感もあって、しばし話し込む。

おばあさんの家はみかん農家だそうだった。そして

「わたしが嫁に来た時は、ここに家があったんだよ」

と話してくれた。家が古くなって、とうとう

こわしてしまったのだそうだった。草むしりをしながら、こしかたの様々の苦勞の思い出と時の移り変りを切なく感じとっていたかのようであった。

「ありがとうございます。お元気で」

と、別れを告げ、50mほど歩いていけると、後から

「おうい。おうい。」

と声がする。ふりかえると、さっきのおばあさんが、ゆっくりと追いついてきた。

「これをあげるよ」

と、白いビニールの袋をさしだしている。中には、今もぎたての夏みかんが4つ入っていた。

私たちは薩埵峠でそのみかんをいただいた。

甘くみずみずしいみかんだった。私たちは、

おばあさんのお陰で人の心の中の東海道を見、昔に思いを馳せながら薩埵峠を越える事ができた。

○宇津ノ谷の里

丸子の宿を過ぎると国道1号線とついたり離れたりしながら宇津ノ谷峠に向う。峠にかかる入り口に国道のトンネルがぼっかりと口をあけていた。ここで旧東海道は国道1号線と別れて、右手の山道をたどることになる。ここまで国道は東海道そのものを通ってきたのに国道だけが

「ハイ、さようなら」

と、山を突き抜けていってしまうような感じである。

トンネルの中にも歩道が通じているからそのまま行けないこともない。約800メートル。トンネルをくぐったほうが時間は少なくて済む。私たちは山道を行こうか、それとも先を急ぐためにトンネルに入ろうか、どちらがよいか少しの間迷った。しかし私達はあくまでも旧東海道を歩くことにした。

トンネルの中にはビュンビュンとひっきり

なしに車が入っていくのに、こちらの旧道には車が入ってこない。急に静かになった。人も歩いていない。舗装されているが、寂しい山道である。切れ端のように残ったこの道は、一般的には不用の道になってしまったから、昔よりも寂れてしまったようだ。



宇津ノ谷の里

この先峠を越えてしまふまでは人も住んでいないだろうと思ひながら登っていくと、宇津ノ谷峠のすぐ下に間の宿だった宇津ノ谷の里がひっそりとそのままに残っていた。

山の中にとり残された昔ながらの里である。峠に向つて登る坂道に段々に昔ながらの古い家が並んでいる。道幅は3メートルぐらいしかない。茶屋の屋号の看板も昔のままに下げている。復元したものではない。昔の東海道そのままである。ここの人々は東海道の間の宿だったという誇りだけを生きがいにして、現代の便利さを拒否して頑に東海道間の宿を守っているかのようなのである。

この道は豊臣秀吉が小田原を攻めるとき開かれたというから、その時の大軍も、その後の幾多の大名行列も、戊辰戦争の時の官軍も幕府軍も、明治天皇の遷都の行列も、みんなこの狭い道を通った。日本の国の大動脈だった賑わいがこの小さな宿場にもあったことをこの古い家並が、たまに訪れるウォーカーに

静かに語ってくれる。

東海道にはこのような昔を語る遺物は数少ない。ここにも現代の生活をしている人々が住んでいるのだから、特別の保護でもないかぎりいずれは消滅していくのだろうか。私たちのこの度の東海道歩きの中でも屈指の良所だっただけに、ぜひ後世にも残してほしい所である。

私たちに先を急ぐ気持ちがいさ少し強ければ、トンネルを歩いたかもしれない。時間をかけてもあくまでも旧東海道をたどる事にしたので、この貴重な東海道名残である宇津ノ谷の里に逢う事ができたのである。

御油

吉田（豊橋）から東海道は名鉄名古屋本線と国道1号線に並行している。鉄道と国道に挟まれて、道は平地に真っすぐに延びている。ぼつりぼつりと古い民家が残っているが、屋根は傾きはめ板も雨戸も破れて朽ちるままに

放置されている。隣には新しいモダンな家が新築中である。東海道は日に日に変化し、街道の面影を急速に失っている。古い家が崩れ落ちそうになって放置されているのを見ると、死んだ人が放置されているのを見るような気がする。悲愴な気分になる。変化とはこういうものであるうか。

音羽川という川があり「五井橋」を渡る。掛け替えたばかりのきれいな橋である。川べりには桜の木が植えられ、流れには緋鯉やま鯉が泳いでいて、のどかな風景である。

「こんな所でお花見をしたら、本当にいい気分だろうね」

などと話しながら橋を渡ると、突然眼前に江戸時代の町並みの風景が現われた。これまでとは全く別世界である。道の両側には連子格子の古い家が軒を並べ、道が緩やかに右に曲がって続いていて先は見えない。人も車も全く通らない。眠ったままとり残されて何百年も過ぎ去ったような町である。今でも眠り続



関宿

けているように静かである。ここでも私たちは夢の世界に誘い込まれた。歩いて行くと、向こうから手甲脚絆に草鞋履きの旅人が急ぎ足で出てきそうな錯覚にとらわれる。現実でなければ映画のセットか何かではないかと思った。しかし現実の家並みであり、本当の宿場町であった。これが本当の東海道なのだ。人は住んでいる。一軒の家に

「今日はー」

と、声をかけてみたが応答はなかった。留守なのだろうか。表札などもついているから、人が住んでいることは確かだ。しかし現実の人が出てこないほうが、このタイムスリップを継続させる事になったのかも知れない。この人たちは我々が夢を見ながら通りすぎるのを待って、じっとしているのだろうか。そんな気がした。

この江戸時代そのままの一角は50メートル程もあっただろうか。少し行くと道は鉤型に曲がっていた。宿場町の特徴である。鉤型の

道の先はもうどこにもある現代の町になっていた。私たちは夢から醒めた。しかし本陣跡などの説明板もあるから、今通って来た古い家並みの一角は御油宿の入り口であって、こちらの方が宿場の中心だったようだ。広重の「御油―旅人留女」の絵はこの辺で描かれたものであろう。

食堂が一軒あった。ちょうど昼時なので入ることにした。「道中そば」など、東海道宿場にちなんだ献立を売っている。

「これを食べれば、特別元気がでるよ」

などと威勢よく商売をしているおかみさんの声は広重の絵の留め女の声を彷彿とさせるものであった。

○ 関

東海道の宿場の家並みが最も昔のままによく残っている所は関である。

関宿は、伊勢の国から近江の国に入る国境鈴鹿峠にかかる手前にある。鈴鹿の関のあつ

た所で、様々な史話伝説も残っている所である。

鈴鹿川にそって昔ながらの堤防の道大岡寺驛を歩き、やがて鈴鹿川から離れて関西本線の踏み切りを越えると、関の宿に入る。

「お万のもたれ松」がまず私たちを迎えてくれた。その先に東の追分、伊勢参りの道の分岐点がある。関西、京、大阪から鈴鹿峠を越えてきたお伊勢参りの人々は、ここで東海道から別れて伊勢神宮に向ったわけである。大きな常夜灯と伊勢神宮の一の鳥居があり、伊勢参道への分かれ道であることを示している。

ここは宿場跡を残すために相当な金もかけ保存の施策も実施していることがすぐ判った。これまで見てきた宿場跡とはだいぶ様子が違っていた。関宿場跡は国の「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されている。ここの建造物の7割270戸は戦前までの建物だそうである。233戸の伝統的建物が保存されているというから、町がそっくり重要文化財な

のだ。

町の保存地区に指定されるところも違うものかと思う。朽ちかけた家も修理され、改造された家は再び昔の家に復元され、電柱は全部取り払われ、郵便局まで昔の土蔵風に建てられている。今の人の生活を保ちながら昔の関宿を人為的に再現しているのである。これまで見てきたいくつかの残された宿場跡とは違う。由比宿の東倉沢西倉沢や宇津ノ里や御油の町並みには、住民が必死で古いものを残そうとしているけれども現代の変化の波には抵抗できず亡んで行く姿があった。そこに悲哀も感じ、郷愁も感じたのだった。

ここでは「昔」が再生されている。時計の針を逆転させ、亡んで行くものを蘇らせ、そこで時間を止めて保存しようとしている。町のPRも効を奏し観光客も多い。リュックを背負った若者や若い女性のグループなども歩いている。保存地区から外れればしゃれた土産物の店もある。古い建物のように見せ掛け

て中では洋食を売っている店もある。

関は見事に復元された昔の宿場町である。

昔はこうだったという事をよく解らせてくれる。東海道中で最も宿場跡が保存されている所と言ってよい。しかし昔の姿だが現代の人を相手の「昔」が作られている。そこには亡び行くものの美はなかった。このように感じるのは欲目かもしれない。博物館に入って復元家屋を見るようで、そこに時の隔たりを感じさせたり、ライブに昔を想像させる力のよくなものはなかった。

東海道五十三次を歩いて、私たちにとって特に印象に残った宿場跡古い町並みは以上の四つであったが、この他にも古い家屋はいくつか点のように残っている。大井川川越遺跡には川越に伴う宿や川会所などがよく復元されて、「越すに越されぬ大井川」の様子を如実に想像させてくれたし、二川宿跡にも鳴海有松あたりにも古い商家などが残っていて、東

海道が生きていた時の鼓動をかすかに伝えてくれた。

東海道の面影を残している所は、日本の社会の進歩から地形などの関係で置き去りにされた所である。それは残そうとして残されたのではなく、捨てられるようにして残った所である。交通の利便さがゆきわたれば、残された古い町も消滅してしまう事は目に見えている。

残そうとして残されつつある所は関だけである。それ以外は今も古い町が消滅しつつある。国や地方自治体の強力な施策がなければ、切れ端のような旧東海道の残影もすべてなくなっていく。

私たちの旅は、失われていくものへの愛惜の旅でもあった。

(つづく)

(元 公立小学校校長)

御法語に聞く

いまいくたびかくらし、
いくたびかあかさんとする。

【登山状】

これからも、どれほどこうして明かし暮らしてゆくこと
でありますようか。

光はやさしく

「きょう一日が終わりだと 西の空が溜め息ついた

家路を急ぐ人の波 やすらぎたちがお出迎え…」

もう二十年ほども昔になろうか、あるニューミュージック歌手がこんな歌を唄っていた。自分はまだ中学生。決してマせていたわけではなかったと思うが、このフレーズに、ある種無常感にも似たやうなものをぼんやりと感じて妙に情緒的になり、物悲しくなったのを覚えている。今日、帰途の電車に乗っていて、そんなことがふと思ひ出された。

ビルの谷間のはるか向こうにだいぶ傾いた夕陽。そのまばゆい光に目を細めていると、電車は次の駅に。ホームからどつとなだれこむ人、人、人…。

あと数時間で暮れようとしている自分にとっての一日をそれとなく振り返る。いろいろなことが思ひ起こされる。家で待つ家族のことを考える。明日必ずしなければならない事が頭の中をよぎって、一瞬、誰も気づくことのない緊張感に嘖まれる。周りに目を向けられ

ば、やはり家へと向かう大勢の人々。その人たちにとっても同じようにそれぞれの今日一日だったのであり、また明日もそれぞれの一日がやってくる。

この人たちには今日、どんな出来事があったのだろう。

家では家族が待っているのだろうか。

明日はどんな一日になるのだろうか。

どんなに時代が流れても、形態が変わっても、夜が明ければある者は糧のために外へ出、ある者は居に残って留守を守るという基本的な人間の営みにおよそ変わりはないだろう。法然上人の時代もまたそうであった。

「あるいは千里の雲にはせて、山のかせぎをとりてとしをおくり、あるいは万里のなみにうかびて、うみのいろくずをとりて日をかさね、あるいは厳寒にこおりをしのぎて世路をわたり、あるいは炎天にあせをのこいて利養をもとめ……」

「いまいくたびかくらし……」の前に置かれたこれらの文章がまた、

人の世の営み、そしてその中であつて懊悩にあえぐ人の心の様を切々と訴えてくる。

こんなことを思いめぐらしていると、あらゆる生物無生物との関わり合いの中にあつてこそ、人間が生命の火を繰り返し繰り返し灯し続けてこられたこと、これからも灯し続けていくであろうこと、そして自分もまた、そのサイクルを外れることなく一部を司る小さな歯車の役を与えられているということに、今さらながら気づかせられた。これが人の世である。これが生きるということなのかもしれない、と。

阿弥陀仏は十劫というはるか昔に正覚を得、以降、無量の寿をもつていつまでも人々を救い導くという。疑わば疑え。その不可思議に猜疑を抱くならば、己の命という不可思議も崩れ落ちてゆくだろう。人の営みが続く以上、救いの光もまた、そのすべての者を照らし出さなければならぬものであつたのである。

街をやさしく彩り包む夕陽のように。

(小村 正孝)

Q

&

A

読者の疑問に
大室了皓師が答えます

仏教相談



浄土宗以外の社寺でお念仏いいの？

四十代の女性です。家は浄土宗の檀家で、主人とともに菩提寺の行事にはよく参加しています。

また、私は神社仏閣をお参りするのが好きで、よく子供たちを連れては近郊の社寺へ出かけていきます。そうした時、私はご本尊に両手を合わせ、お念仏を称えながら、家族の者の幸せ、事故に合わないように、病気をしないように等祈ります。祖父母がいつもそうであったから、それが私にうつっているのだと思いますが、浄土宗以外の社寺でもお念仏を称えてしまいます。

これっていいんでしょうか。お念仏じゃないお寺や神社でお念仏を称えたりしたら、その仏さまや神さまが怒ってしまうようなことにはならないでしょうか。最近ちょっと不安になっています。お教えください。

私がかつて東京都の芝にある浄土宗大本山増上寺におりました時に、アメリカから二百人ほどのキリスト教の牧師さん達が参観に来ました。

一時間位の予定で増上寺の説明を、と頼まれました。

通訳が同行するといつので、気安く承知しました。

通訳しますから、私は三十分ほどの内容を考えていました。

話し始めて、困りました。通訳さんは仏教語をよく知らないのか、私の話す仏教語を正確に英語に訳してくれませんでした。

せっかく遠方から来てくれた人達に、しかも牧師さんに誤解をされたら増上寺のみならず浄土宗の恥になりかねません。

そこで意を決して、下手を承知で英語で説明を自分で始めました。

「通訳さんは仏教語をよくご存じないので、私は英語には自信がありませんが、あなた方

のために敢えて英語でお話し致します。後で質問の時間を取りますからよろしく」

と断りました。それは彼等のための私のさやかな配慮ですから、「我慢しなさい」とばかりにたどたどしいけれども、憶せずに話してあげました。

予想したように質問が殺到しました。

その中で、

「仏教徒である貴方は、どうして異教の神を拝むのか」

というのがありました。

それは増上寺の門前に芝神明神社（めぐみの喧嘩で有名）がありますが、私はその宮司さんとも親しくしておりましたので、お祭りがありますと、増上寺を代表して参詣していました。神社の氏子代表には増上寺の講中役員を兼ねている人もいます。

また仏壇と神棚の両方が有る家も少なくありません。

などと、日本人の一般的な宗教観について、

実例をあげての説明が彼等には理解できなかったのです。

異教は邪教、キリスト教以外は悪魔の教えで人を誑かすものである、仏教も例外ではないという立場で日本にキリスト教の布教を、有名なフランシスコ・ザビエルを初め多くのイエズス会の牧師が始めた事は、ルイス・フロイスの名著である日本史（平凡社刊）にも明らかです。

当時の日本人は、彼等はインド（天竺）から来ましたので、お釈迦様の教えを直に説きに來た、と勘違したとも言われています。

さて肝心のお答えの前触れが長くなりましたが、欧米人とは違って、日本人は彼等には到底理解が出来ないおらかな宗教観を持っています。

だから日本には宗教戦争はありません。

さらに浄土宗の法然上人は、極めておらかな方で、

「ほかの宗教を決してけなしてはいけない。

全て立派な教えである。自分に縁のある宗派に入ったら良からう。浄土宗は凡夫である自分に縁の深い宗派だと思って念仏に励みなさい」と。また、

「何も知らなくとも良い。お念仏を称えることが一番大事だと思ってよく称えなさい」と教えられました。

ですから、どこの神社やお寺に参詣してもお念仏さえ称えれば良いのです。

私はキリスト教会にお参りしても、十字架やマリア様のお姿に向かっても、何時もお念仏を称えています。当然の事ですが敬虔な態度は忘れません。

もし参詣する神社やお寺の、それぞれのご本尊やご神体ののみ名を称えねばならないとしたなら、無学な私はそれらのご本尊やご神体を一々は知りませんから、お称え出来ません。あなたもご存じないだろうと思います。

ですから何処でもお念仏をお称え下さい。

京都一千年の歴史に

育まれた巧みの技

京仏壇・佛具は当店に!!

☎ 六一五—〇八八四
京都市右京区西京極郡町一〇三番地三

(株) 島津法衣佛具店

☎ 〇七五—三一四—七七六八
FAX 〇七五—三一五—三七五三

一人の人生、一人の足跡をメ
ッセージとして、ひとつのカタ
チに残す。後世に残す。

いわゆる「自分史」を書き、

出版することが流行っているら
しい。そうはいっても文章など
苦手だな、と思う人もいる。

そういう場合はプロの書き手
がお話をうかがう。とりとめな
く話していくうちに、だんだん
とまとまっていく。

それを書き起こしたのを見て
「此処をこう直せ」とか「あ
そこをもうちょっと巧く書いて

ほしい」などと言いがら、ま
た次の出来栄を待つ。これで
いい、となったら、そこで一冊
の本を創る。

これは結構楽しい仕事だ。

時代がおそろしく速く進むよ
うになってきたため、つい親父
の時代がどんなものだったか分
からなくなる。母親の生きた青
春が辿れなくなる。そんな子供
や孫たちに、こんな風だったん
だよ、と伝えることができる。
こうした願いのお手伝いをす
る会社がある。株式会社ケンシ

自費出版のすすめ

YOUWORKS。フリーダイヤル
0120-4301413

この会社では希望ドクターを
紹介する健康サービスや、趣味
を広げる様々な講座、あるいは
遺言書の作成、どんな葬儀が望
ましいかなどのケアまであり、
まさに後顧の憂いなく、人生を
満喫できるような取りはからつて
くれるというわけである。

悩みを悩みのまま持つてうじ
うじと暮らすより、プロにまか
せるところはまかせて、有意義
に過ごすというのも手である。

FORUM
浄土の広場

「浄土の広場」では
読者の自由な参加をお待ちしています。
詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、
TVウオッチング、紀行文、その他創作等。
あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。
どしどし編集部にお寄せ下さい。

浄土誌上句会

●花

窓開き額縁ほどの花見かな

河合富美枝

●窓を額縁に見立ててはいるが、「窓開き」とあるから、少くとも百八十度には景が広がる。それでもなお「額縁ほど」と言うのは、結局そこから食み出すことをしない状態、そのことを指しているのだろう。

うららかや鎧外せぬ埴輪たち

井村善也

はつなつの薄い皮膚持つ少女かな

瀬川浩子

二の腕に光溢れて夏に入る

中村陽子

●風船

風船の影丸くゆく石の街

蠟山吉宣

●風船を頭上にふわふわ浮かべて行く。作者はその風船の影だけを押し出す。それだけで持ち手の全体はわかるが、そんなことより、

下の句との取り合わせによって、抽象的な構図を求めたのだろう。

花の宴 ジャンゲルジムは子等の城

中村よみ子

いちだんと音強まりし花の雨

石原 新

ペン皿の埃 払ふや花曇

斎藤通敏

●自由題

汐千果つ船の汽笛を合図とし

鳥谷ときを

●汐千狩の時間は、時計を早回したかのよう過ぎて行く。だから潮に押されてだんだん後退していても、気がつかずに居る。「船の汽笛」は目覚まし時計のように、潮時を気づかせてくれたのだ。

空青し風船追ふ子の瞳 澄む

池田伊吹

風船の逃げて天井の高さまで

横田麻衣

紙風船猫がつついて舞ひ上がり

芝山由文

第七回 浄土誌上句会の お知らせ

季節 朝顔 夕立 自由題

参加作品 編集部選

花

車椅子妻のよるこぶ桜かな
生かされて又も今年の桜かな
酔いしれて心うきうき花見酒
豆煮ゆる一日のゆとり花の雨
水面を領す落花や鳥の声
花吹雪棚の朽ちたる過疎の駅
人に酔ひしだれ桜の傘を出ず
川幅を狭しと桜花揺れ映る
博物館土器のやすらぐ花の雨
花便り元気が一番太い字で
花吹雪浴びて神社の横通る
波止めの護岸越えゆく花の屑
別れて一人の電車花疲れ

上野明達
中島一子
宮里亨和
河合富美枝
金谷友江
細田初枝
藪田郁子
石原 新
増田信子
加藤政男
吉村尚子
池田伊吹
堤ふみ子

風船

球宴や風船飛ばしヤジとばし
掌のひらのサイズのまに紙風船
ござれ市風船買ふて露天見ゆ
風船の飛んで都の川晴るる
風船のかたまり飛んで海に向く
風船や紺碧の海洋々と
若き日の風船ひとつ港の絵
小児科の窓に風船二つ三つ
ボタン穴に結んで風船走りくる
風船の大群空に解き放つ
紙風船母と子がつく蝶の登
喚声に風船消えゆく野球戦
吾子の手を離れて風船空にとけ

自由題

子に交り誕生仏に甘茶かけ
一瞬に山並隠し春嵐
あの崖下のふとき「ダンチ」よる里よ
特りの森きらきらとゴツホ展
雨あとの土あたたかし薯を植う
水温む硬貨の光る神の池
のどかさや大地を踏みて山に立つ
うららかや縁に広げる旅の地図
だしぬけに窓ゆきさぶりぬ春の雷
因地図に探す名のあり芽木の風
亡き母の指貫小さし花辛夷

中島一子
大場 清
大場 清
河合富美枝
河合富美枝
河合富美枝
道山幸次郎
千崎千春
穴田美智
芝山由文
北川弘子
井村善也
藤本順子
上野明達
中島一子
山本美代子
河合富美枝
金谷友江
細田初枝
野口善雄
山口信子
中村陽子
増田信子
別役玲子

締切・七月二十日
発表・『浄土』九月号
選者・増田河郎子(『南風』主宰)
応募方法
●いづれの題とも数の制限はありません。
●特選各一名・佳作各三名
葉書に俳句(何句でも可)と、住所・氏名を必ずお書き下さい。
宛先
〒105-0001 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内
月刊『浄土』誌上句会係

法然上人鑽仰会平成11年度総会の御案内

(1)日 時 **平成11年 6 月23日(水)**

◎2時30分～3時30分 総会

- ・平成10年度決算報告および平成11年度予算案。
- ・財政状況に伴う「浄土」の紙面変更報告。
- ・会員数推移と勧誘のお願い。
- ・その他。

◎3時30分～5時

公開講演会 石丸晶子先生 「平家物語と法然上人」

◎5時30分～7時30分 懇親会

(2)場 所 総会および公開講演会

大本山増上寺 (慈雲閣1階ホール)

懇親会

東京プリンスホテル (会費10,000円)

編集後記

雨の空からす鳴いても若葉たつ 岱潤

最近は一十代の若者の活躍がかなり目立っている。音楽の世界ではわずか十六歳の宇多田ヒカルさんがCD売り上げ四百三十五万枚という日本音楽史上最多数を記録し、サッカーの世界では小野伸二君を中心にした、十代のチームが選手権で活躍し、世界二位という快挙を果たした。また野球界では十八歳の松坂大輔君が一五五キロのスピードボールを初め度肝を抜く投球で完封勝利までし、パリーグではかつてない観客動員数を続けている。

彼らは皆すでに若者としてすごいのではなく、大人の世界の中ですでに卓

越した力を発揮していることで評価を得ている。三人ともすでにプロの世界の人、つまり早く大人になってしまった子供たちである。

しかし世間にはむしろ大人になれない子供たちのほうが多い。エゴと個性を取り違え、学級崩壊だの援助交際だのと真つ暗やみの若者世代のニュースの中で、彼らの出現は商業主義にはやる大人たちよりも、彼ら同世代の若者たちにとって、大きな光に違いないだろう。なぜなら彼らは、若者の力でも大人を越えることができることを証明してくれた、かけがえのない存在だからだ。

(長)

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤
斎藤晃道
村田洋一
佐山哲郎
間川彰道

編集顧問

大室了皓

浄土

六十五巻 六月号 頒価六百円
年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可
印刷 平成十一年五月二十五日
発行 平成十一年六月一日

発行人 真野龍海
編集人 宮林昭彦
印刷所 株式会社 シーアイイー

〒一〇五〇〇一一

東京都港区芝公園四一七一四明会館内

発行所 法然上人鑑仰会

電話 〇三(三五七八)六九四七
FAX 〇三(三五七八)七〇三六
振替 〇〇一八〇一八二一八七



道路工事中



消火器



歩行者横断禁止



火気厳禁



止まれ



雷害ならせ



民衆近し、静かに



足元注意



踏切あり



非常口



放 弾



安心と安全をお届けするのは、
このマークです。



さわらな



われ物注意



安全第一



児童注意



取り扱い注意

ここにあるマークの意味、わかりますか？暮らしの中には、注意を呼びかけるマークが、ほんと、たくさんあるんですね。生活のいろんな場面で、みんなが注意し合って、ルールを守っている。だからこそ、私たちは毎日を穏やかに、安らかに過ごせます。でも、万が一のときのために、覚えておいて頂きたいマークがあります。それは、あなたに安心と安全をお届けする、このマークです。保険のことは、あなたの街にある住友海上代理店へ。

安 心 と 安 全 を お 届 け す る



住友海上

〒104-8252 東京都中央区新川2-27-2 TEL:03-3297-1111(大代表)

